

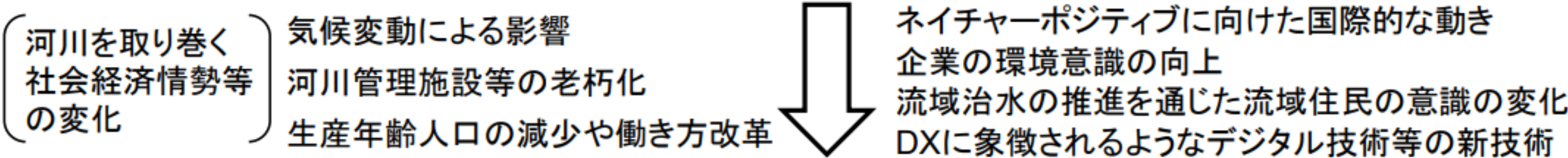
前回（第6回）流域委員会で 頂いたご意見について

令和7年10月31日
国土交通省北陸地方整備局
富山河川国道事務所

河川環境の整備と保全

現状

○平成9年の河川法改正により、治水などと同様に、河川環境の整備と保全が目的に位置づけられたことをはじめ、河川行政においては、多自然川づくりなど、様々な河川環境施策を進めてきた
○今後は、従来の河川環境施策に加え、近年の社会経済情勢等の変化を踏まえた充実が必要



今後の河川整備等のあり方

河川における取組	流域における取組
<div>(1)河川環境の目標</div> <div>治水対策と同様に、河川環境についても目標を明確にして、関係者が共通認識の下で取組を展開</div> <div>・「生物の生息・生育・繁殖の場」を河川環境の定量的な目標として設定</div> <div>・河川整備計画へ河川環境の定量的な目標を位置づけ、長期的・広域的な変化も含めて評価</div> <div>・河川や地域の特性を踏まえた目標の設定 など</div>	<div>(1)流域連携・生態系ネットワーク</div> <div>流域治水の推進を通じた、流域が連携して取り組む機運の高まりを、流域の環境保全・整備にも展開</div> <div>・流域治水の取組とあわせ、グリーンインフラの取組を展開</div> <div>・生態系ネットワーク協議会の取組の情報発信・共有</div> <div>・関係機関と連携した環境データの一元化や共同研究の促進 など</div>
<div>(2)生物の生息・生育・繁殖の場を保全・再生・創出</div> <div>蓄積された知見や社会経済情勢等の変化を踏まえ、全ての河川を対象に、多自然川づくりを一層推進</div> <div>・調査、モニタリング等を通じ順応的に管理</div> <div>・災害復旧や施設更新を、ネイチャーポジティブを実現する機会と捉え、環境も改善 など</div>	<div>(2)流域のあらゆる関係者が参画したくなる仕組みづくり</div> <div>ネイチャーポジティブの動きや民間企業の環境意識の高まりを踏まえた仕組みづくりを推進</div> <div>・民間企業等による流域における環境活動の認証、官民協働に向けた支援や仕組みの充実</div> <div>・利用しやすい環境関連データの整備と情報発信 など</div>

河川環境の整備と保全 河川水辺の国勢調査によるモニタリング結果

○「河川水辺の国勢調査」とは、河川を環境という観点からとらえた定期的、継続的、統一的な河川に関する基礎情報の収集整備のための調査

○生物調査項目は、魚類、底生動物、植物、鳥類、両生類・爬虫類・哺乳類、陸上昆虫類等であり、全国109の一級水系の直轄区間の河川(河川版)及び直轄・水資源機構管理のダム(ダム湖版)で実施されている

河川水辺の国勢調査の実施状況

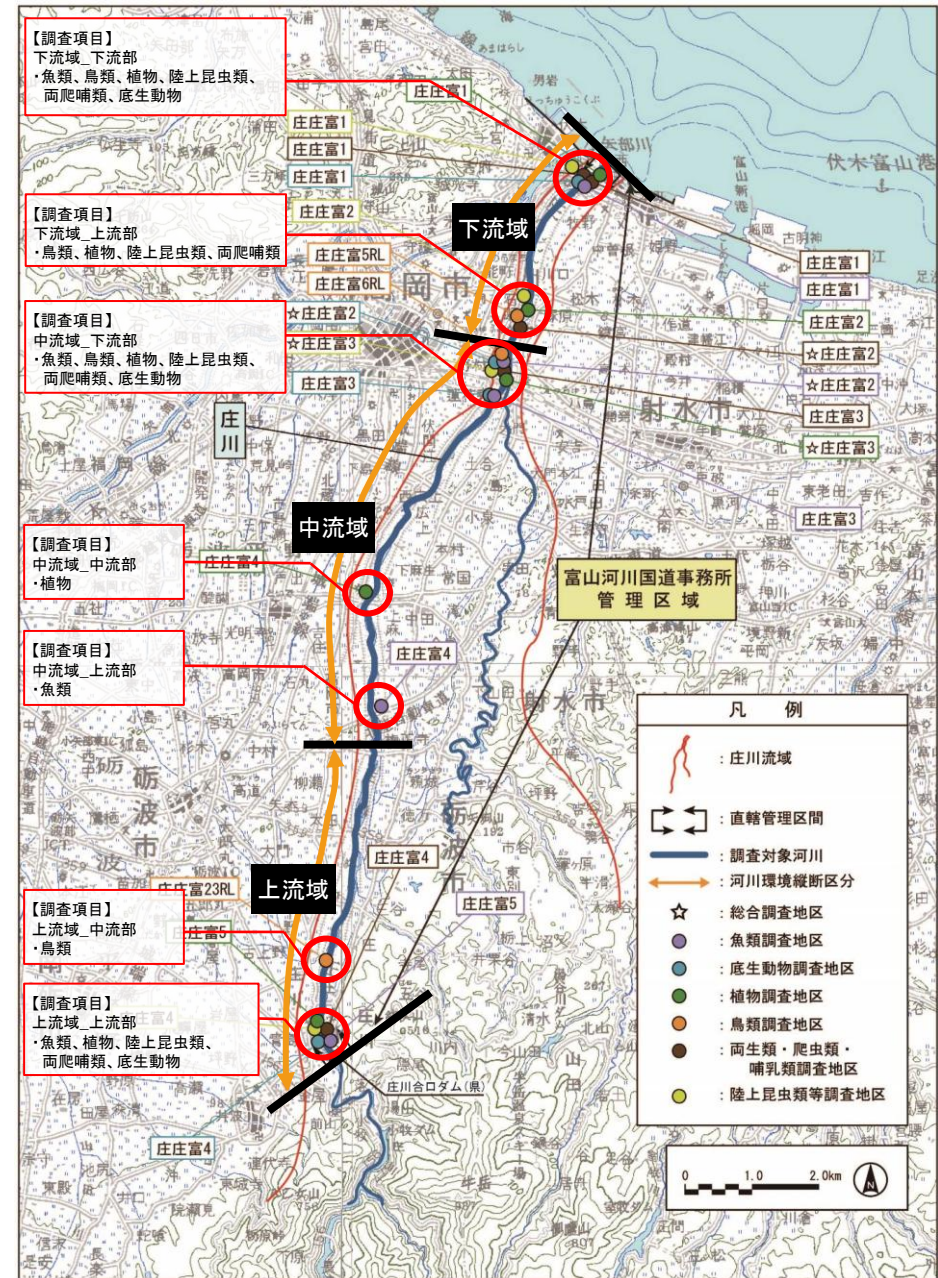


図 庄川における河川水辺の国勢調査実施地点

●:実施済 ○:実施予定

項 目	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
魚類					●					●					●	
鳥類	●					●					●					
植物		●					●					●				
陸上昆虫類			●					●					●			
両爬虫類 (両生類・爬虫類・哺乳類)				●					●							●
底生動物 ※貝類、ミミズ類等					●									●		

項 目	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
魚類				●					●					●			
鳥類				●													○
植物		●										●					
陸上昆虫類					●										●		
両爬虫類 (両生類・爬虫類・哺乳類)										●							
底生動物 ※貝類、ミミズ類等			●					●					●				

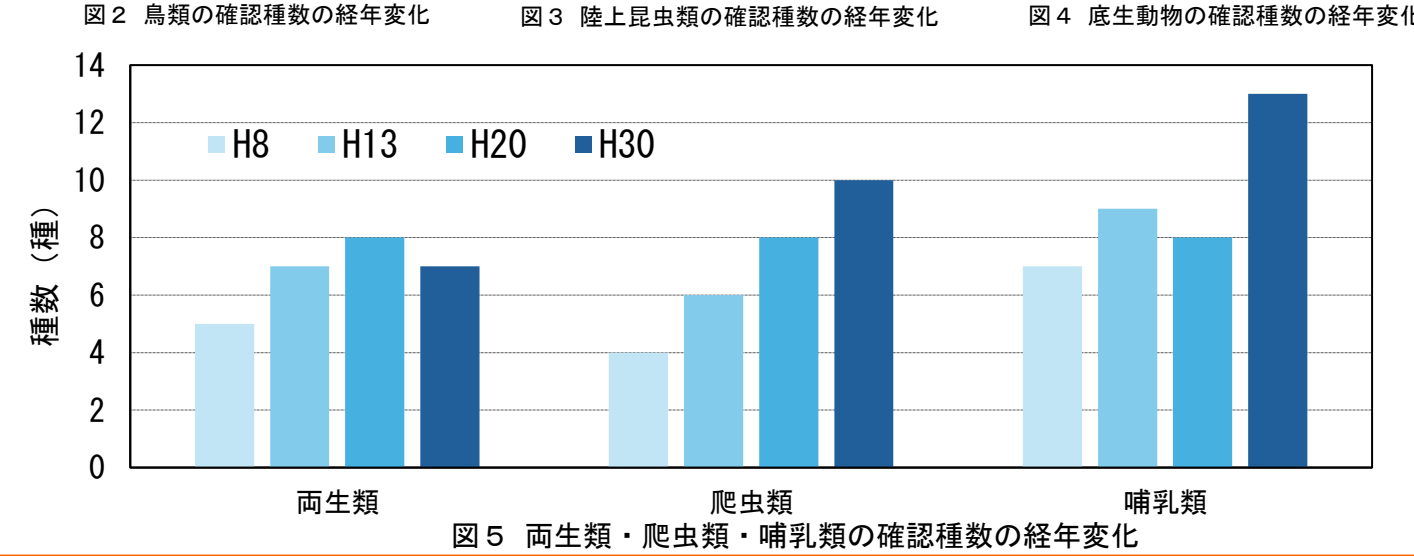
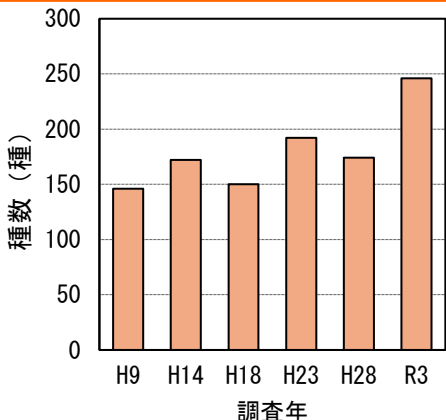
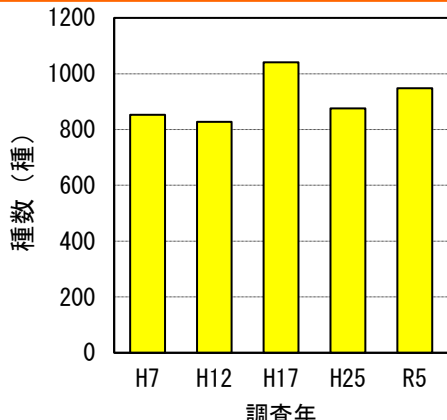
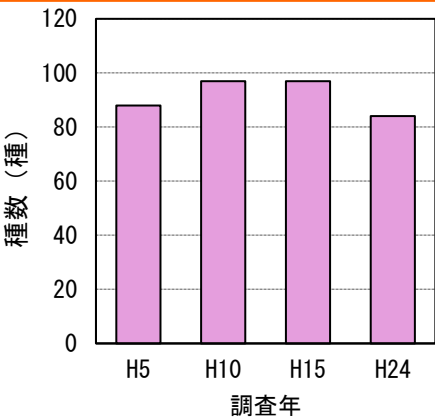
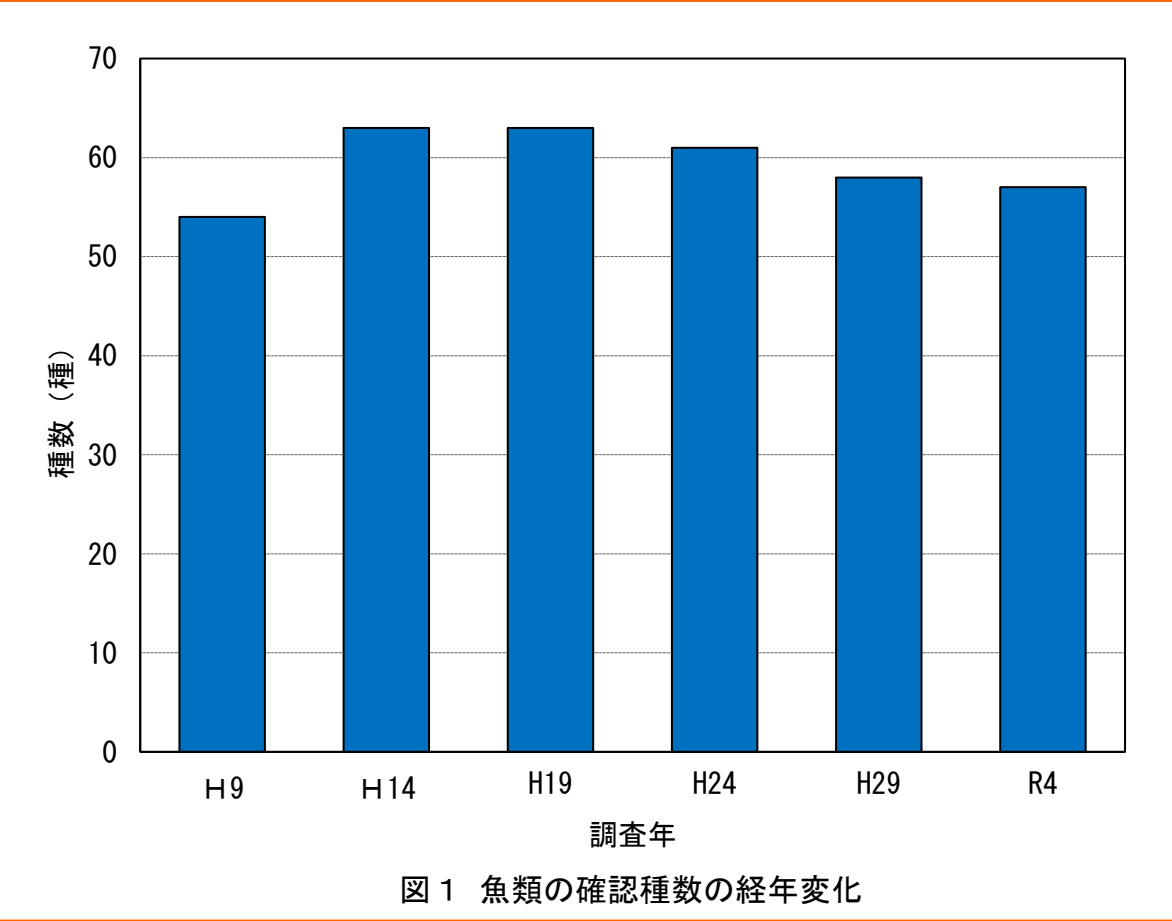
※マニュアルの改訂に伴い、H28に全体調査計画の見直しを実施。
今年度も、R7以降の10年間における全体調査計画の見直しを進めている。

河川環境の整備と保全 河川水辺の国勢調査によるモニタリング結果

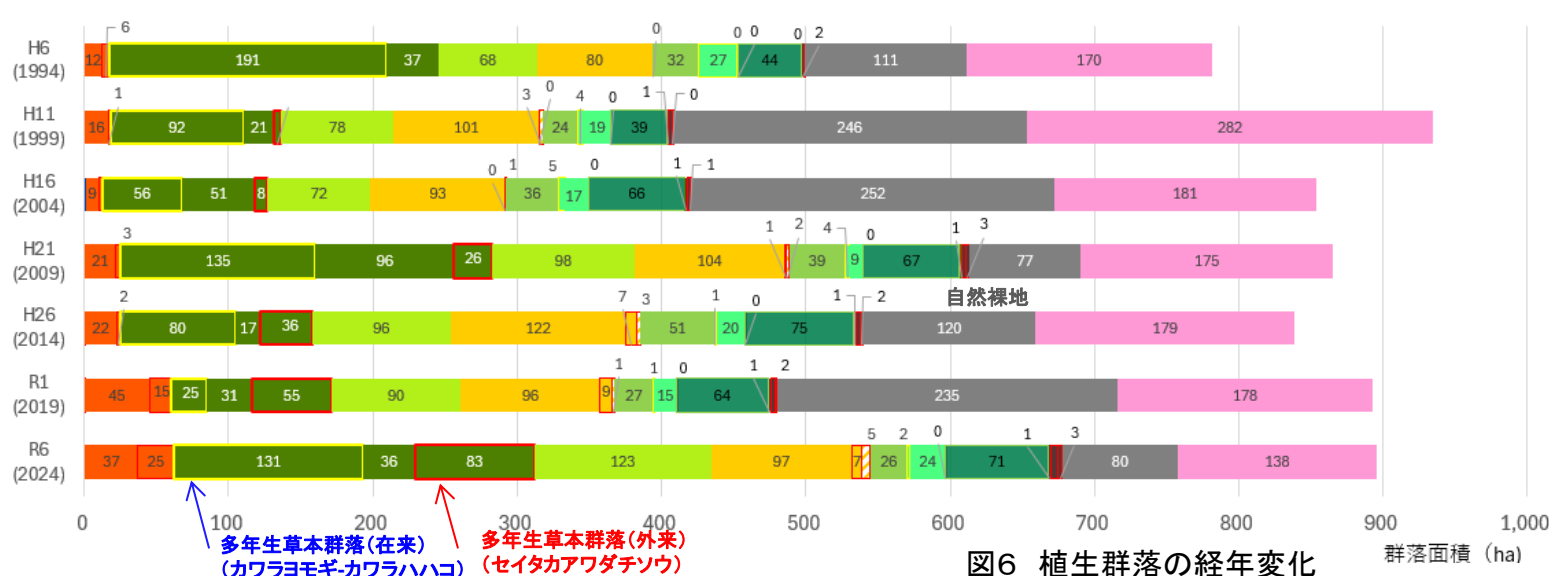
※河川水辺の国勢調査結果より整理

- 魚類、鳥類、陸上昆虫類、両生類の確認種数は、調査年により若干の差異はあるものの、経年的に概ね同程度であった（図1, 2, 3, 5）
- 底生動物、爬虫類・哺乳類の確認種数は、近年増加傾向にある。（図4, 5）
- 植物群落は、カワラヨモギ-カワラハハコ群落や自然裸地は増減を繰り返しながら維持されている。外来種であるセイタカアワダチソウ群落が増加している（図6）
- 外来種（特定外来生物）については、魚類、底生動物、両生類にて継続的に確認されており、庄川に定着しているものと推測される

生物相（魚類、鳥類、陸上昆虫類、底生動物、両生類・爬虫類・哺乳類）の変遷



河道内の植物群落の変遷



- 一年生草本群落（在来）
- 多年生広葉草本群落（在来 その他）
- 単子葉草本群落（在来 ヨシ・ツルヨシ・オギ群落）
- ヤナギ林
- その他低木林（外来）
- 植林地（在来）
- 自然裸地
- 沈水・砂丘植物群落（外来）
- 多年生広葉草本群落（在来 カワラヨモギ-カワラハハコ群落）
- 多年生広葉草本群落（外来 その他）
- 単子葉草本群落（外来）
- その他低木林（在来 その他）
- 常緑針葉樹林
- 植林地（外来 その他）
- 沈水・砂丘植物群落（在来）
- 一年生草本群落（外来）
- 多年生広葉草本群落（外来 セイタカアワダチソウ群落）
- 単子葉草本群落（在来 その他）
- その他低木林（在来 アキグミ群落）
- 落葉広葉樹林
- 植林地（外来 ハリエングジュ群落）
- 人工利用（グラウンド・構造物など）

利賀ダム建設事業における環境配慮

○利賀ダム建設事業にあたっては、環境に配慮し、自然環境と共生したダムづくりを目指すために、この地域の状況を十分に把握し、自然環境にも精通した有識者の方々の指導、助言を得ながら「利賀ダム環境レポート(仮称)」を取りまとめることを目的として、「利賀ダム環境検討委員会」を設立。

○令和3年3月に環境レポート「利賀ダム環境保全への取り組み」として取りまとめ、公表。

○令和4年2月に「利賀ダム環境モニタリング委員会」を設置し、「利賀ダム環境保全への取り組み」に基づいた、モニタリング調査等の実施と、事業進捗に伴って必要と判断される調査・保全措置の検討等について、地域の状況を十分に把握し、かつ自然環境に精通した有識者から指導、助言を得ながら、事業進捗を図っている。

(五十音順、敬称略)		
氏 名	経歴、勤務先	担当分野
阿部 學	元新潟大学農学部教授 日本猛禽類研究機構理事長	動物（鳥類）
池本 良子	金沢大学名誉教授	水環境
大井 徹	石川県立大学 環境科学科 特任教授（名誉教授）	動物（哺乳類）
田中 晋	富山大学名誉教授	生態系、 動物（魚類、水生生物）
中田 政司 （委員長）	富山県中央植物園園長	植物、景観、人と自然の 触れ合い活動の場
中村 浩二	金沢大学名誉教授	動物（昆虫類）
南部 久男	元富山市科学博物館館長	動物（両生類、爬虫類）

（第8回）利賀ダム環境検討委員会構成

	開催日
第1回	平成16年 8月24日
第2回	平成17年 2月 4日
第3回	平成18年 2月24日
第4回	平成19年 3月 6日
第5回	平成20年 3月19日
第6回	令和元年 6月21日
第7回	令和2年 2月27日
第8回	令和3年 2月 9日

利賀ダム環境検討委員会 開催実績

(五十音順、敬称略)		
氏 名	経歴、勤務先	担当分野
阿部 學	元新潟大学農学部教授 日本猛禽類研究機構理事長	動物（鳥類）
池本 良子	金沢大学名誉教授	水環境
稲村 修	魚津水族館 元館長	動物（魚類、水生生物）
大井 徹	石川県立大学 環境科学科 特任教授（名誉教授）	動物（哺乳類）
中田 政司 （委員長）	富山県中央植物園園長	植物、景観、人と自然との 触れ合いの活動の場
中村 浩二	金沢大学名誉教授	動物（昆虫類）
南部 久男	元富山市科学博物館館長	動物（両生類、爬虫類）

（第4回）利賀ダム環境モニタリング委員会構成

	開催日
第1回	令和 4年 2月28日
第2回	令和 5年 2月27日
第3回	令和 6年 2月26日
第4回	令和 7年 3月 3日

利賀ダム環境モニタリング委員会 開催実績

利賀ダム

環境保全への取り組み





令和 3 年 3 月

国土交通省北陸地方整備局
利 賀 ダ ム 工 事 事 務 所

利賀ダム 環境保全への取り組み 目次

はじめに

1 利賀ダム建設事業の位置、目的及び内容

1-1 利賀ダム建設事業の目的

1-2 利賀ダムの位置

1-3 利賀ダム建設事業の内容

1-4 これまでの環境保全への取り組み

2 利賀ダム周辺の概況

2-1 地域の自然的状況

2-2 地域の社会的状況

3 調査、予測及び評価の項目

3-1 項目の選定

3-2 項目の選定理由

4 環境保全への取り組み

4-1 大気質(粉じん等)

4-2 騒音

4-3 振動

4-4 水環境(水質)

4-5 動物

4-6 植物

4-7 生態系

4-8 景観

4-9 人と自然との触れ合いの活動の場

4-10 廃棄物等

環境レポート「利賀ダム環境保全への取り組み」
（令和3年3月公表）

庄川水系におけるグリーンインフラの取り組み

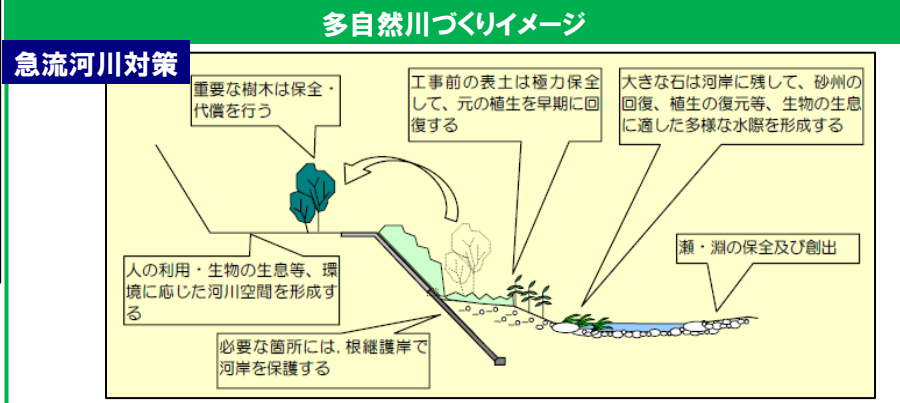
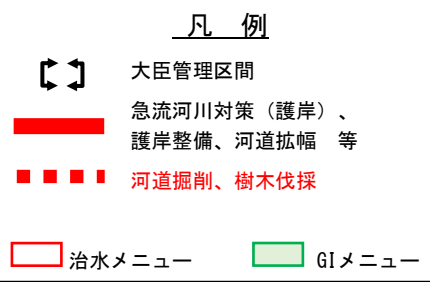
庄川水系流域治水プロジェクト2.0 【グリーンインフラ】

～急流河川における堤防安全度向上と流域治水対策の推進～

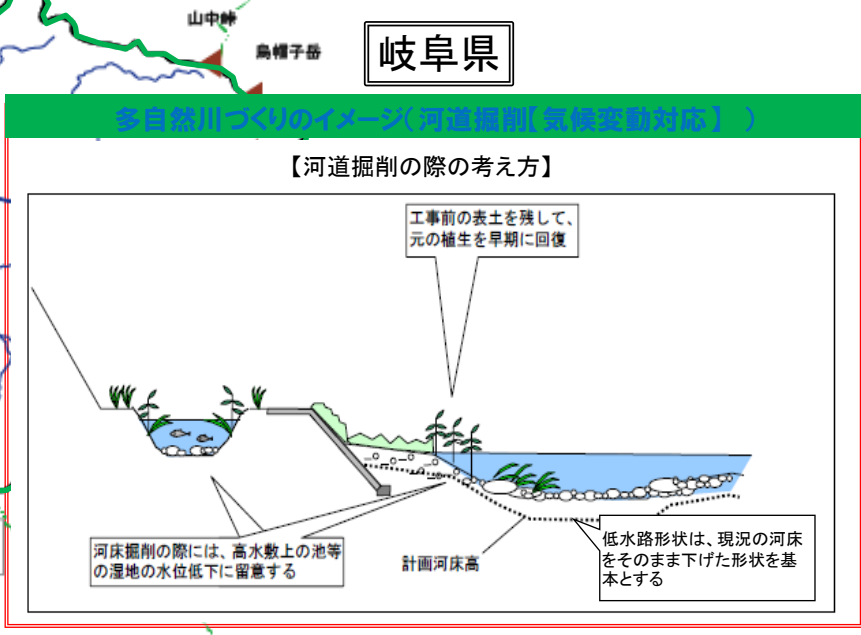
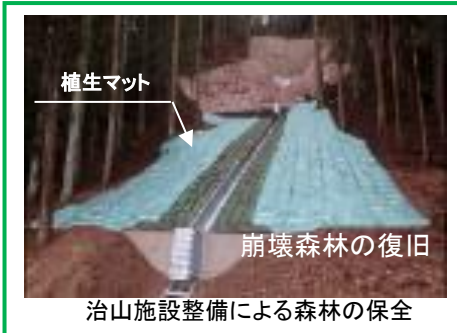
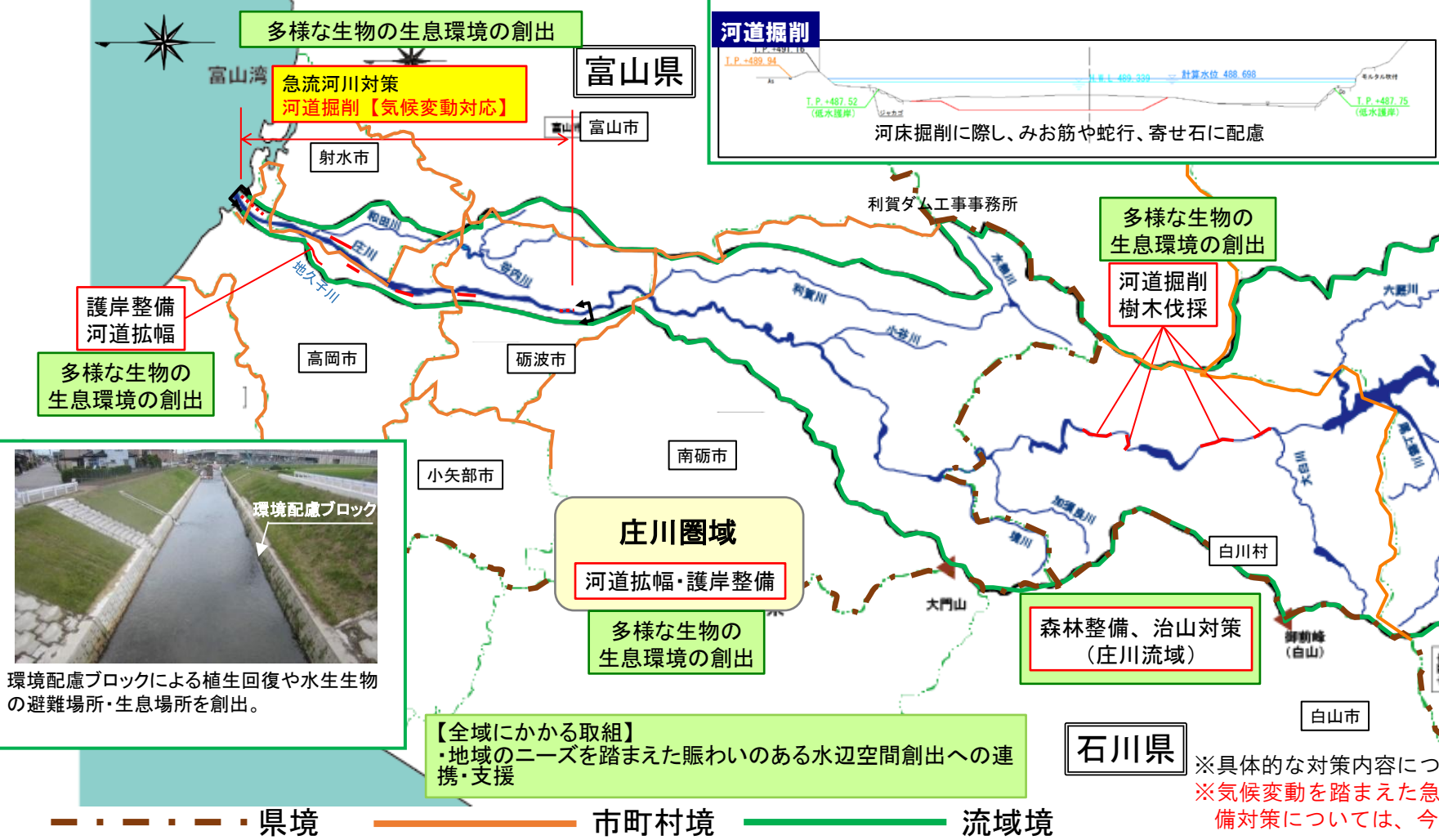
赤字：現行流域治水プロジェクトからの追加・変更点

●グリーンインフラの取組 『生物の生息・生育・繁殖環境などの多様な自然環境の保全・創出』

- 庄川は、扇状地上流部では巨石や露岩が卓越し、中流部では礫河原が広がる急流河川であり、先駆性の植物が生育するほかアユやウグイなどの瀬を好む生物がみられる。下流部ではヨシなどが生育し、魚類の産卵場等となっているほか、池やワンドはトンボ類の生息地となっている。
- 河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境などの多様な自然環境の保全・創出を目指し、今後概ね20年間で多様な河川環境を保全・創出するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。



- 治水対策における多自然川づくり
・生物の多様な生育環境の保全・創出
- 自然豊かな森林づくり
・森林整備、治山対策
- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み
・住民のニーズに応じた多様な利用空間の創造
・小学校などにおける河川環境学習

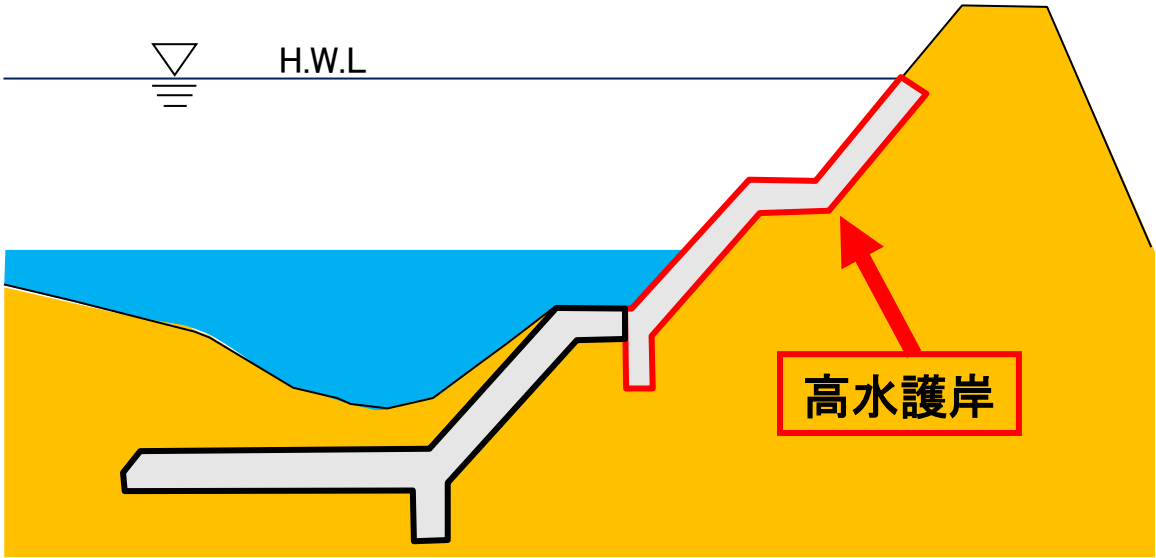


※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
※気候変動を踏まえた急流河川対策および流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した河川整備対策については、今後の河川整備計画変更の過程でより具体的な対策内容を検討する。

河川環境の整備と保全 庄川における多自然川づくり(自然石を活用した護岸)

- 庄川では、玉石を用いた護岸整備を行っている
- 玉石は、庄川で採取できる自然石を活用し、生物の生息・生育・繁殖環境と多様な河川景観の保全に配慮した整備を行っている

通常の護岸の標準断面図



護岸の材料（玉石）



玉石の選別状況



小矢部川 右岸 9. 2 k 付近

コンクリートブロックを用いた護岸



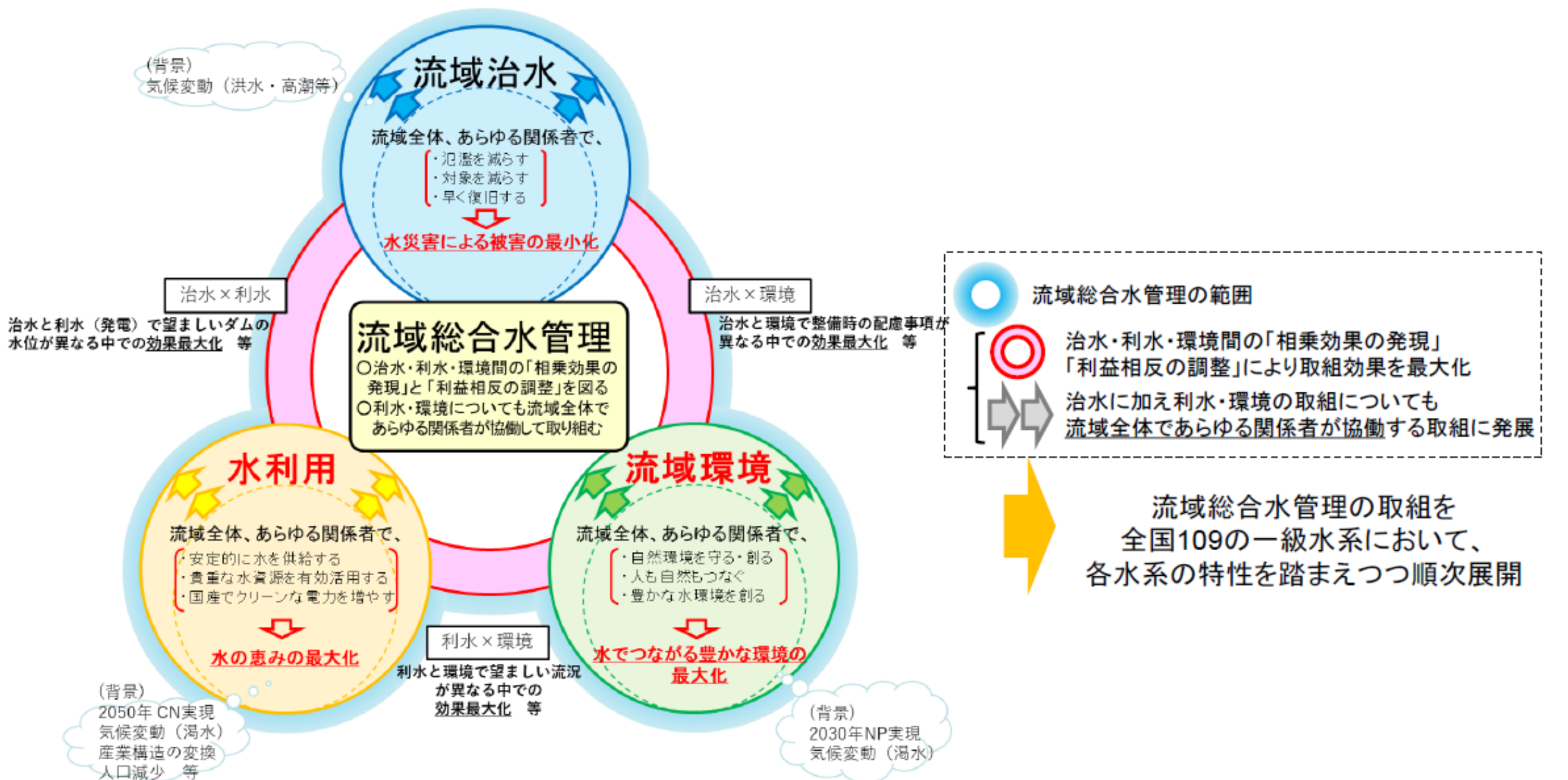
庄川 左岸 2 5. 4 k 付近

玉石を用いた護岸



流域総合水管理の推進

○治水に加え利水・環境も流域全体であらゆる関係者が協働して取り組むとともに、流域治水・水利用・流域環境間の「相乗効果の発現」「利益相反の調整」を図るなど、流域治水・水利用・流域環境の一体的な取組を進めることで「水災害による被害の最小化」「水の恵みの最大化」「水でつながる豊かな環境の最大化」を実現させる「流域総合水管理」を推進する。



出典：国土交通省_令和8年度 水管理・国土保全局予算概算要求(令和7年8月)
mlit.go.jp/river/basic_info/yosan/gaiyou/yosan/r08/R8gaisan.pdf

河川環境の整備と保全 工事による環境影響の軽減事例(令和3年8月洪水 災害復旧工事)

- 被災箇所は、19.4k付近から22.9k付近までの約3.5kに集中し、周辺には工業団地や商用井戸があり、災害復旧工事に伴う地下水位の低下が懸念された
- 全14箇所の観測井戸で水位観測しながら工事を実施。
- 工事より地中から発生する湧水を、本川へ戻すために設置する排水ポンプの稼働日数を短縮するために、法留基礎設置では工期短縮の工法を行った。
また、ポンプにより排水する場合も、観測井戸の状況を確認しながら、こまめなポンプ稼働を行った。
- 地下水位の低下に配慮した施工により、周囲に大きな影響を与えることなく、災害復旧工事を完了させることができた。

